

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	共通看護技術Ⅰ	1	30	1	1	専任教員
科 目 目 標						
看護活動に共通する基本的な看護技術を習得できる。						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目：看護技術とは 看護技術の特徴、規則(安全・安楽・自立) 看護技術の範囲 看護技術を適切に実践するための要素</p> <p>2回目：コミュニケーション技術① コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程</p> <p>3回目：コミュニケーション技術② 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>4回目：コミュニケーション技術③ 効果的なコミュニケーションの実際</p> <p>5回目：コミュニケーション技術④ コミュニケーション障害への対応</p> <p>6回目：観察 観察の意義と目的 観察の方法 看護記録の意義と目的 看護記録の構成 報告の目的と方法 看護業務に関する情報の種類 情報の記録・報告・共有</p> <p>7回目：感染防止① 感染防止の基礎知識</p> <p>8回目：感染防止② 標準予防策</p> <p>9回目：感染防止③ 標準予防策</p> <p>10回目：感染防止④ 感染経路別予防策</p> <p>11回目：感染防止⑤ 洗浄・消毒・滅菌</p> <p>12回目：感染防止⑥ 無菌操作</p> <p>13回目：感染防止⑦ 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>14回目：安全確保の基礎知識(患者誤認防止・転倒転落防止)</p> <p>15回目：まとめ・試験</p>						<p>演習： コミュニケーション 衛生学的手洗い 無菌操作 (鑷子の取り扱い、滅菌物の取り扱い) 必要な防護用具の着脱 (ガウン、エプロン、手袋)</p> <p>※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。</p> <p>※衛生学的手洗い、必要な防護用具の着脱は技術チェックを行う。</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院</p>			<p>「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p>			
主とする授業形態			評 価 方 法			
<p>講義、演習 グループワーク</p>			<p>筆記試験</p>			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	共通看護技術Ⅱ	1	30	1	2	専任教員
科 目 目 標						
看護過程の構成要素を理解し、看護過程を展開する技術を習得できる。						
講 義 内 容					留意点等	
1回目：看護過程の概念 看護過程における構成要素 看護過程展開の基盤となる考え方 看護理論と看護過程 2回目：看護過程の各段階① アセスメント（情報の種類・情報収集の方法） 3回目：看護過程の各段階② アセスメント（分類：看護過程と看護理論） 4回目：看護過程の各段階③ アセスメントの実際（情報収集・分類） 5回目：看護過程の各段階④ アセスメント（分析・全体像の把握） 6回目：看護過程の各段階⑤ アセスメントの実際（分析・全体像の把握） 7回目：看護過程の各段階⑥ アセスメントの実際（分析・全体像の把握） 8回目：看護過程の各段階⑦ 看護問題の明確化（看護問題） 9回目：看護過程の各段階⑧ 看護問題の明確化の実際（看護問題） 10回目：看護過程の各段階⑨ 看護計画 11回目：看護過程の各段階⑩ 看護計画の実際 12回目：看護過程の各段階⑪ 実施・評価 13回目：看護過程の各段階⑫ 実施・評価の実際 14回目：看護診断・共同問題 15回目：まとめ・試験					※看護師の実務経験を活かして、講義と事例を用いた看護過程の展開を行う。	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」医学書院			「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント」ヌーヴェルヒロカワ 「看護過程に沿った対症看護」学研 「改訂版 実習記録の書き方が分かる看護過程 展開ガイド」照林社 「今日の治療薬」2023 南江堂			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、グループワーク			レポート 70% 筆記試験 30%			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	フィジカルアセスメント	1	30	1	2	専任教員
科 目 目 標						
対象の健康状態を把握し、アセスメントする技術を習得できる。						
講 義 内 容						留 意 点 等
<p>1回目：看護におけるフィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントの基本原則 フィジカルアセスメントの基本技術 問診・視診・触診・打診・聴診</p> <p>2回目：スクリーニング 一般状態の観察・全身の概観 基礎データ 身体計測（身長・体重・胸囲・腹囲）</p> <p>3回目：バイタルサインの測定 呼吸・体温・脈拍・血圧</p> <p>4回目：バイタルサインの測定 呼吸・体温・脈拍・血圧</p> <p>5回目：バイタルサインの測定の実際 呼吸・体温・脈拍・血圧</p> <p>6回目：バイタルサインの測定の実際 呼吸・体温・脈拍・血圧</p> <p>7回目：呼吸器系</p> <p>8回目：呼吸音聴診の実際</p> <p>9回目：循環器系</p> <p>10回目：心音聴診の実際</p> <p>11回目：消化器系</p> <p>12回目：感覚器系</p> <p>13回目：運動器系</p> <p>14回目：中枢神経系</p> <p>15回目：技術試験・筆記試験</p>						<p>演示： 意識レベルの観察 リンネテスト</p> <p>演習： バイタルサイン測定技術 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 1)～4)一連の流れ 肋間の同定 呼吸音の前後面の聴診 心音の聴診 パルスオキシメーターでの測定 腸蠕動音の聴診 外眼球運動 視野のスクリーニング 対光反射 身体計測 問診</p> <p>*適宜フィジカルアセスメントモデルを使用</p> <p>※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、演習、演示			筆記試験 50% 技術試験 50%			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術 I	1	30	1	1	専任教員
科 目 目 標						
人間にとっての環境と活動・休息の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得できる。						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目：快適な病床環境</p> <p>1. 環境の調整の意義</p> <p>2. 療養環境のアセスメント</p> <p>1)患者の生活環境の条件 2)病棟・病室の構造・機能</p> <p>3. 療養環境の調整と整備</p> <p>2回目：快適な病床環境の実際</p> <p>3回目：快適な病床作り①</p> <p>1. ベッドの作成方法 2. リネンのたたみ方</p> <p>4回目：快適な病床作り②</p> <p>1. ベッドメイキングの実際</p> <p>5回目：快適な病床作り③</p> <p>1. ベッドメイキングの実際</p> <p>6回目：快適な病床作り④</p> <p>1. ベッドメイキングの実際</p> <p>7回目：快適な病床作り⑤</p> <p>1. 臥床患者のリネン交換</p> <p>8回目：活動と休息①</p> <p>1. 活動と休息の意義 2. 活動と休息に影響する因子</p> <p>3. 活動と休息のアセスメント 4. ボディメカニクス</p> <p>9回目：活動と休息②</p> <p>1. 活動と休息を促す援助</p> <p>1)移動(体位変換、移乗、移送)の援助</p> <p>2)睡眠を促す援助</p> <p>10回目：活動と休息③</p> <p>1. 援助の実際 1)臥床患者の体位変換</p> <p>11回目：活動と休息④</p> <p>1. 援助の実際 1)車椅子への移乗と移送</p> <p>12回目：活動と休息⑤</p> <p>1. 援助の実際 1)ストレッチャーへの移乗と移送</p> <p>13回目：安楽確保の援助①</p> <p>1. 安楽の概念 2. 安楽な姿勢・体位の特徴</p> <p>3. 安楽を提供するためのケア</p> <p>14回目：安楽確保の援助②</p> <p>1. 援助の実際 1)体位保持 2)温罨法・冷罨法</p> <p>15回目：まとめ・試験</p>						<p>演習：</p> <p>快適な療養環境の整備</p> <p>ベッドメイキング</p> <p>臥床患者のリネン交換</p> <p>臥床患者の体位変換</p> <p>歩行・移動への援助</p> <p>(杖・歩行器も含む)</p> <p>ベッドから車椅子への移乗</p> <p>車椅子移送</p> <p>ベッドからストレッチャーへの移乗</p> <p>ストレッチャー移送</p> <p>温罨法・冷罨法(体温調整の援助)</p> <p>安楽な体位保持</p> <p>※ベッドメイキングは技術チェックを行う。</p> <p>※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、演習			筆記試験			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術Ⅱ	1	30	1	1	専任教員
科 目 目 標						
人間にとっての食事と排泄の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得する。						
講 義 内 容					留 意 点 等	
1回目：食事の意義 食行動のメカニズム 2回目：栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 医療施設で提供される食事 3回目：食事介助の実際 4回目：摂食・嚥下訓練 5回目：非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法 6回目：排泄の意義 排泄（排尿、排便）のメカニズム 7回目：排泄行動に影響する要因のアセスメント 8回目：自然排尿および自然排便への援助の実際 1. トイレにおける排泄介助 2. 床上での排泄援助 3. オムツによる排泄援助 9回目：尿器・便器の選択と排泄介助の実際 10回目：陰部洗浄の実際 ポータブルトイレでの排泄援助の実際 11回目：オムツ交換の実際 12回目：尿失禁・排尿困難時の援助 便失禁の援助 13回目：排便を促す援助 便秘のアセスメント 浣腸・摘便 14回目：浣腸・摘便の実際 15回目：まとめ・試験					演習： 食事介助（嚥下障害除く） 尿器、便器の選択と排泄 介助 ポータブルトイレでの排 泄援助 陰部洗浄 オムツ交換 浣腸、摘便 ※看護師の実務経験を活かし て、講義と演習を行う。	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護 技術」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、演習			筆記試験 80% 提出物 20%			

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術Ⅲ	1	30	1	1	専任教員
科 目 目 標						
人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得できる。						
講 義 内 容						留 意 点 等
1回目:衣生活① 衣服を用いることの意義 熱産生、熱放散 被服気候 衣生活に関するニーズのアセスメント 2回目:衣生活② 病衣の選び方、交換の基準、寝衣交換のポイント 寝衣交換の実際 3回目:衣生活③ 臥床患者の寝衣交換の実際 4回目:清潔援助の基礎知識 清潔の意義(身体、心理、社会的) 清潔行動とは 清潔行動に影響を与える因子 清潔方法、効果、原則、援助の選択方法 5回目:清潔① 入浴とシャワー浴の目的、方法 清拭の目的と方法、実際 6回目:清潔② 臥床患者の全身清拭 7回目:清潔③ 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 8回目:清潔④ 洗髪の目的と方法、実際 9・10回目:清潔⑤ 臥床患者の洗髪(ケリーパッド、洗髪車) 11回目:清潔⑥ 手浴、足浴の目的と方法、実際 12回目:清潔⑦ 臥床患者の手浴、足浴 13回目:清潔⑧ 整容の目的と方法 口腔ケアの目的と方法、実際 14回目:清潔⑨ 口腔ケア(歯ブラシ、スポンジブラシ) 15回目:技術試験・筆記試験						演示: 足浴(座位保持可能患者) 臥床患者の洗髪(洗髪車) 演習: 臥床患者の手浴、足浴 臥床患者の清拭 臥床患者の洗髪・整容 (ケリーパッド) 口腔ケア (歯ブラシ、 スポンジブラシ) 臥床患者の寝衣交換 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、演習、演示			筆記試験 50% 技術試験 50%			

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	診療時援助技術 I	1	30	2	2	専任教員
科 目 目 標						
1. 与薬、採血の目的を理解し、安全・安楽に実施するため技術を習得できる。 2. 医療機器の基礎知識および正しい取り扱いについて理解できる。						
講 義 内 容				留 意 点 等		
1回目: 静脈血採血 挿入部位、採血方法、採血後の観察内容・採血に関する有害事象 2回目: 採血の実際 (演習) 3回目: 与薬の基礎知識 (与薬の目的、与薬時の看護師の役割) 薬剤の種類と取り扱い方法、与薬方法と効果の観察、 与薬の副作用 (有害事象) の観察 4回目: 経口与薬、口腔内与薬 吸入、点眼・点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 5回目: 直腸内与薬の実際 (演習) 6回目: 注射法 (注射の基礎知識) 皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 7回目: 注射の準備 (演習) 薬液の吸い上げ 8回目: 皮下注射の実際 (演習) 9回目: 筋肉内注射の実際 (演習) 10回目: 静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル法 11回目: 静脈内注射、点滴静脈内注射の実際 (演習) 12回目: 点滴静脈内注射の実際 (演習) 13回目: 医療機器を使用する患者の看護: 医療機器の原理、 安全対策、輸液ポンプ・シリンジポンプ、人工呼吸器の取り扱い 14回目: 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作の実際 (演習) 15回目: まとめ・試験				演示: 皮内注射 静脈内注射 演習: 薬剤等の管理 (毒薬、劇薬、 麻薬、血液製剤) 経口薬 (パッカ錠・内服薬・ 舌下錠) の投与 経皮・外用薬の投与 直腸内与薬 採血 (真空管) 検体 (血液) の取り扱いの実際 皮下注射 筋肉内注射 点滴静脈内注射とその管理 輸液ポンプの操作 シリンジポンプの操作 人工呼吸器の取り扱い ※看護師の実務経験を活かし て、講義と技術演習を行う。 ※モデル人形への静脈血採血に ついては技術チェックを行う。		
テ キ ス ト				サ ブ テ キ ス ト		
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4「臨床看護総論」 医学書院				「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護 技術」医学書院		
主とする授業形態				評 価 方 法		
講義、演習、演示				筆記試験		

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	診療時援助技術Ⅱ	1	30	2	1	専任教員
科 目 目 標						
検査・治療・処置の目的を理解し、安全・安楽に実施するための技術を習得できる。						
講 義 内 容						留 意 点 等
1回目:検体検査 血液検査 尿検査 便検査 喀痰検査 2回目:生体情報のモニタリング 1.心電図検査 2.心電図モニター 3.SpO2モニター 4.血管留置カテーテルモニター 検査の介助の実際(心電図検査) 3回目:生体検査 X線撮影 コンピューター断層撮影(CT) 磁気共鳴画像(MRI) 内視鏡検査 超音波検査 肺機能検査 核医学検査 4回目:穿刺の介助 胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺、持続吸引 5回目:酸素吸入の適応と方法 6回目:酸素ポンベの取り扱い・酸素吸入療法の実際(演習) 7回目:排痰法の適応と方法 口腔内・鼻腔内吸引、体位ドレナージ ネブライザーを用いた気道内加湿 8回目:排痰法の実際①(演習) 口腔内・鼻腔内吸引、体位ドレナージ 9回目:排痰法の実際②(演習) 気管内吸引、ネブライザーを用いた気道内加湿の実際 10回目:皮膚・創傷の管理 創傷管理 褥瘡予防・処置、包帯法 11回目:褥瘡予防ケアの実際、創傷処置(創洗浄、創保護)の実際 包帯法の実際(演習) 12回目:導尿 13回目:一時的導尿の実際、膀胱留置カテーテル挿入・管理の実際(演習) 14回目:輸血:輸血の種類と取り扱い方法、輸血の管理方法 輸血の副作用(有害事象)の観察(演習) 15回目:まとめ・試験						演習: 酸素ポンベの取り扱い 酸素吸入療法 口腔・鼻腔内吸引、 気管内吸引 ネブライザーを用いた気道内加湿 体位ドレナージ 包帯法 一時的導尿 膀胱留置カテーテル挿入・ 管理 褥瘡予防ケア 創傷処置(創洗浄、創保護) 検査の介助 輸血の管理 ※看護師の実務経験を活かして、 講義と技術演習を行う。 ※口腔・鼻腔内吸引は技術チェッ クを行う。
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護 技術」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、演習、演示			筆記試験			